

第2回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成13年8月9日 19:00～20:00

市民活動サポートセンター
フレキシブルスペース

1 報告事項

次第に沿って報告を行った。

2 審議事項

- ・田口委員長から委員を辞任する旨、申し出があった。(10月からサポートセンターの運営を委託するYMCAよこすかコミュニティサポートの理事になっているため)
- ・委員長に新井委員、委員長職務代理に水谷委員を選出した。
- ・その他は提案どおり承認された。

3 その他

- ・次回運営委員会は、10月25日(木)。

[意見概要]

委員長の選出について

(田口委員)

- ・私が理事の一人となっている、YMCAよこすかコミュニティサポートが10月からサポートセンターの運営委託を受けることになったため、委員を辞任する。

(水谷委員)

- ・本来ならば、委員長職務代理が委員長を務めるべきところだが、個人的な理由で私が委員長を引き受けられないので、どなたかに委員長をお願いしたいと考えている。どなたかやっていただける方はいないか。

(新井委員)

- ・委員長に立候補する。

(水谷委員)

- ・新井委員に委員長をお願いすることとしたい。 —承認—

(新井委員)

- ・委員長職務代理は、引き続き水谷委員をお願いしたい。
- ・今後、大きな決定事項はないと思われるが、限られた時間内に終わるよう、また、一度も発言せずに帰るといったことがないよう、議事運営にご協力いただきたい。

市民公益活動団体について (資料5)

(事務局)

- ・資料5備考欄に new とあるのが新たに加わった団体である。今回は公益性について判断に迷うケースはなかった。

(松尾委員)

- ・利用団体リストは登録順ではなかったか。

(事務局)

- ・利用団体リストは5月の第1回運営委員会から資料として提出しているが、団体名で検索できるよう五十音順になっている。

その他

(新井委員)

- ・時間があるので、各委員から一言ずつ意見、課題、感想等をお願いしたい。

(安倍委員)

- ・素晴らしい委員長が誕生し心強い。どんな活動でも先細りになりがちだが、市民活動サポートセンターは広がりを感じる。今後さらに広げていきたい。

(飯塚委員)

- ・市民協働推進フォーラムに参加した。応募が6団体もあったこと、ここのスタッフが応募していたことなど驚いた。

(飯島委員)

- ・委託団体、運営方針が決定し、良かったと思う。

(岩崎委員)

- ・よく知っている田口委員の団体が委託を受けることになり心強く感じる。10月以降、運営委員会も変わってくる可能性がある。

(江口委員)

- ・シビル・ライフ・サポートとして運営委託団体に応募し、個人的に収穫があった。また多くの人に市民活動やサポートセンターに関心を持っていただけた。先日、プレゼンテーションに参加した団体でミーティングを行い、今後交流していこうということになった。
- ・10月から委託になっても、サポートセンターの運営がきちんと行われているかどうかみていく必要があり、運営委員会の機能、あり方は基本的には変わらないと考えている。

(遠藤委員)

- ・来週から、サポートセンターを実際に使って様子を見るつもりである。何か課題等があれば委員長に報告したい。
- ・運営委員で懇親会、暑気払いなどを計画しても良いのではないかと考えている。

(庄司委員)

- ・田口委員には運営をがんばっていただきたい。

(林委員)

- ・フォーラムでは実行委員として受付等を担当し、選考会にも立ち会った。水谷委員、新井委員は選考委員として、真剣に選考に取り組んでおり、力強く感じた。

(松尾委員)

- ・公開プレゼンテーションは興味深かった。いろいろな団体が応募しており、意外性があった。結果としては妥当なところに落ち着いたと思う。選考委員ではなかったのですが、発言できないもどかしさがあった。

(道畑委員)

- ・サポートセンターを多くの人にPRしているが、知らない人が多い。これだけ予算をかけているのにもったいない。今後、PRが必要である。前回の運営委員会から20~30の利用団体が増えているので、このように増えていくと良い。いつも同じ人が使っているようで、一

部の人に私物化されているように感じることもある。団体間の横のつながりも取れていないようだ。

(新井委員)

- ・年間行事に交流のための行事があるし、今度委託を受ける YMCA も「風を起こし…」という表現で交流を意識した運営を PR しているので、期待できる。

(飯塚委員)

- ・サポートセンターの利用団体にとっては、個々の利用が第一で、横のつながりは次のステップである。
- ・広報などでも呼びかけ、交流事業も実施している。多くの人は知っているはずで、知らないという人は関心がないだけではないか。

(松尾委員)

- ・私たちが利用する時も、聞かれれば答えるが、隣で使っている団体に自分たちのことを積極的に話す必要はないのが実際のところである。オープンの中から考えれば利用者も増えており、交流も増えている。

(遠藤委員)

- ・私たちが今後、広報活動を考えていく必要がある。

(百瀬委員)

- ・田口委員長には今まで苦勞され、感謝している。運営サイドに変わるが、今後もよろしくお願ひしたい。
- ・横の連携について、私たちは通常、定例会で使っているので、他の団体に交流しようと来られても困る。利用団体には、会報で情報発信をしてほしいと思う。

(新井委員)

- ・道畑委員から私物化されているように思うとあったが、その根拠はどこにあるのか、道畑委員がサポートセンターをどのようにして知ったかを聞きたい。

(道畑委員)

- ・広報で知ったが、どんな団体が利用しているかは、運営委員会で配られる利用団体リストを見て始めて知った。

(水谷委員)

- ・知りたいと思ったら受付で聞けば教えてもらえる。サポートセンターのスタッフが横のつながりをつくってくれることを期待するのではなく、自分で動くことが市民活動である。

(江口委員)

- ・よく利用しているが、いろいろな人が使っていて私物化ということはない。印刷機だけ使う人、ポスターだけ貼りに来る人など、いろいろな利用の形がある。

(遠藤委員)

- ・毎日利用するなど、独占するような状況があるか。

(新井委員)

- ・そのような状況になれば、普通は事務所を持つ。行事等があつて一定期間連続で使う団体もあるかもしれないが、独占ということはない。

(林委員)

- ・道畑委員、遠藤委員、私の 3 人は、今年度から委員になった同期である。私自身、市民協働

推進フォーラムの実行委員を務め、自分でやる必要があると感じた。

(道畑委員)

- ・それにしても、1か月に2,000人の利用者というのは少なすぎるのではないか。

(新井委員)

- ・去年の今ごろ行った夏休み親子市民活動体験や「のたろんフェア 2001」など、利用率を上げる工夫はしている。利用率を上げることは、私たちが考えていくことである。

(松尾委員)

- ・運営委員として利用者を増やしたいと思っているので、打ち合わせなどは、なるべくサポートセンターを使うようにしている。一人でも多くの人をここに連れて来てPRするよう努力している

(新井委員)

- ・今まで利用していた人がいやなことがあって使わなくなるということがないよう、声を拾っていききたい。

(遠藤委員)

- ・広報の一角にサポートセンターのPRをいれてもいいのではないか。

(新井委員)

- ・広報を独占するわけにはいかない。がんばって口コミで広めるしかない。

(田口委員)

- ・道畑委員のように利用者が少ないと思っている人もいる。汐入周辺だけでもボランティアセンターや産業交流プラザなどいろいろあるが、知らない人は知らない。「この指とまれ」と自ら発信するのが市民活動の鉄則である。
- ・サポートセンター運営委託団体の応募申請書縦覧期間中、サポートセンターに申請書を見に来て6団体の応募があることに驚いた。公開プレゼンテーションではベストを尽くしたが、運営委託が取れるとは思わなかった。
- ・市としても、公開プレゼンテーションなど、経過をオープンにしながらかる新しい試み、チャレンジだったと思う。
- ・現在のスタッフの努力で、サポートセンターは、これまで比較的順調に運営されてきたと評価している。委託を受ける団体として、今までの状態を崩さず、いかしてやっていきたい。市民活動を盛り上げようという志はこれまでと同じである。
- ・公開プレゼンテーションは寿命が縮まる思いだったが、委託団体に選ばれ身が引き締まる思いである。期待に沿うよう努力したい。

(飯島委員)

- ・鎌倉のサポートセンターは、民営化のためか知らない人が多いように思う。これからどう市民に知らせていくか、情報を発信していくかが課題である。

(新井委員)

- ・10月から新しい運営形態になることを広報で知らせていくか。

(事務局)

- ・10月号でPRしたい。

(事務局)

- ・次回の運営委員会は10月25日(木)